

平成24年度 第3回 江別市行政改革推進委員会

会議録(要点筆記)

日 時:平成24年10月16日(火) 10時30分～11時30分

場 所:公室

出席者:(行革委員)9名

河西委員長、石井委員、加藤委員、石本委員、成田委員、

小野寺委員、喜多委員、中村委員、藤原委員 欠席者:巴委員

(事務局)7名

鈴木部長、米倉次長、川島課長、酒井主査、稲田主査 竹下主任、馬場主事

傍聴者 : 1名

次 第

1. 開会

2. 協議事項

外郭団体の経営評価について

(株)江別振興公社に対する評価結果について

3. その他

4. 閉会

河西委員長	<p>平成24年度第3回行政改革推進委員会を開催する。</p> <p>本日、巴議員はご欠席。石井委員は10分ほど遅れて参加する。</p> <p>協議に入る前に、本日の委員会に傍聴希望がある。行政改革推進委員会の設置要綱には、特段傍聴について規定はないが、当委員会は市民生活に関係が深い事項を協議する審議会に準ずる機関として、公開の対象となっていることから「発言権は無い・傍聴のみ」ということで入室を許可したいと思いますよろしいか。</p>
委員	< 異議なし >
河西委員長	<p>それでは、次第の協議事項に入る。(1)外郭団体の経営評価について、先日実施した(株)江別振興公社の外部評価の結果(案)について、事務局より説明願う。</p>
事務局	< 資料について説明 >
河西委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>先日の委員会では皆さんより色々なご意見を頂戴し、結果として送付された外郭団体経営評価項目別結果集計は11頁に及んだ。膨大な量を1枚の評価結果にまとめなくてはならないため、全ての意見を反映させることはどうしても難しいので、ある程度集約し抽象的な書き方になっているようなところもあるかもしれない。また、皆さんがご発言されたことがここに記載されていないかもしれない。そこで、この案を基にしそれぞれの項目に関して案に出していないが、どうしてもこれだけは入れて欲しいというものがあればご意見を頂戴し委員会の中で議論したうえで、委員会としての評価結果を作っていくたい。評価結果は外部評価の総括と外部評価分析の2つに分かれており、総括は外部評価分析をまとめたものであるので、まず2の外部評価分析から1項目ずつ皆さんからご意見を頂戴する。</p> <p>まず公益・公共性に関して、何かどうしても付け加えて欲しい言葉や考え方はあるか。これでよろしいか。</p>
委員	< 異議なし >
河西委員長	<p>それでは、公益・公共性に関しては事務局作成の文案通りとする。</p> <p>続いては、効率・機動性についてはいかがか。</p>
中村委員	この通りである。
河西委員長	何かあるかと伺っても、これだけ少ないスペースで記載しようとするのは難しい。事務局の苦勞がよく分かる。

委員	<特になし>
河西委員長	<p>それでは、効率・機動性に関しても事務局文案を認めたいと思う。 続いて自主・自立性はいかがか。</p>
石本委員	<p>どこに反映させたらよいのかと頭を悩ませている1つのキーワードがあり、それは皆さんの裸の言葉の中から見つけ出したものである。指定管理者制度の宿命のようなもので、コストカットということがすごく強調されるあまり、この団体についても上手く人的資源に配分するパイがなく、自分達の組織の中でがんじがらめになっている。例えば能力を伸ばそうとか、人材を育てようという余力が全然感じられない。このキーワードをどこかに反映させたいが、それがどこにあたるのか思いつかない。その辺を気にしながら見ていくといいのではないかと考えている。</p>
河西委員長	<p>指定管理者制度が有期、例えば4年や8年間に限定された期間の事業者となるので、結果として雇用者も長期雇用ではなくて指定管理者をしている間だけの有期雇用になってしまう。その結果として優秀な人材がなかなか確保できないという悩みは他の外郭団体でも同じような話が出ている。そういった指定管理者制度が持っているある種のデメリットに関して言及した方がいいというのであれば、どのあたりであろうか。</p>
中村委員	<p>自主・自立性の項目ではないか。というのは、株式会社の公社ということで考えれば、やはりもっと独立性のある人を確保して、より広範な事業を展開することも含めてやっていかなくてはいけないと思う。そういう意味では自主・自立性で取り扱い、今、問題点を報告していく形がいいのではないか。</p>
河西委員長	<p>そうすると、今の文章は収益事業を確保することが必要で、そのために次代を担うプロパー職員育成が求められるという書き方であるが、鶏が先か卵が先かではないが、まず公社としてのきちんとした将来ビジョンを考えたいうえで優秀な人材を確保して、そして収益事業を積極的にやって行くべきというような書き方の方がよろしいか。指定管理業務だけやっているとどうしても優秀なプロパー職員を確保するだけのインセンティブというのが与えられないので、きちんと独自の収益事業が必要である。</p>
中村委員	<p>プロパー職員を確保するのはそれなりの待遇の必要や仕事の配分、より将来的な見込みというものも必要である。そういうものがないと人を雇うことができないし、雇われた人もやはり仕事としておもしろくない形になってしまって、自分の力を発揮することができない。私は事業というものがあって人は育っていくだろうし、必要であるだろうと思っている。その辺からいくと公社の考え方をより外に向けたものにする、それなりに人もいるだろうし、お金も回っていくだろうと思う。</p>
河西委員長	<p>今、2人の委員の方から自主・自立性についてご意見をいただいた。公社としてきちんと将来を見据えた収益事業を行い、その中で優秀なプロパー人材を確保していくと</p>

	<p>いうことを記載した方がいいのではないかということであったが、他の委員の皆さんはいかがか。</p> <p>この委員会の中で新しい文案を検討するのは時間がないので、もし皆さんにお認め頂けるのであれば、一度事務局の方で文案を再作成していただき、最後の確認をメール等でしていただくというやり方にしたいかがか。それとも事務局で今言われて直ぐというのは厳しいと思うが、何か文案が今あるか。</p>
事務局	<p>予定として、色々ご意見をいただいたうえで再度ご意見をまとめさせていただき、委員の皆さんに確認していただく、ないしは委員長にご確認いただいてということを経済事務局としては考えていた。メールで皆さんにご確認いただくということであれば、そういう形にさせていただくので、この場はそのように進めていただきたい。</p>
河西委員長	<p>了解した。それでは自主・自立性のところに先ほど石本委員、中村委員から出されたことをふまえた新しい文案を事務局に考えていただいて、それを皆さんに再確認をしていただいたうえで、正式決定することにしてよろしいか。</p>
委員	<p><問題なし></p>
河西委員長	<p>それでは続いて財政支援に関して何か今のような抜け落ちているキーワードや考え方があればご指摘いただければと思う。</p>
喜多委員	<p>このままでよろしい。</p>
中村委員	<p>私は指定管理側の人間だが、一番初めの行の「指定管理料は選考過程を経て決定されるものであり、問題はない。」と記載されているが、本当に問題は無いのだろうか。要するに公社は市から出資されており、人的支援も受けているというところがより優位性があるのではないかと思う。従って「問題がない。」という表現が正しいのかという気がしている。優位性はあると思うので。</p>
成田委員	<p>この文章の4行目の頭のところ「特命の事業」とあるが、ここは何かある程度将来に行う事業を想定したうえで入れた言葉であるか。</p>
事務局	<p>その部分は当日のご議論の中で出た、このまま指定管理業務だけであれば存在の意味合いは少ないが、何らかの形で市の別テーマでの事業を担っていただくような方向性があればというご意見である。例えば公民館であれば、市が別の位置づけとして生涯学習や社会教育的な何かを公社にお願いするという事であれば、また別の存在意義が出てくるというご意見があったので記載している。何らかの「特命」をこの団体に求めているのであればという意味での表現である。</p>
成田委員	<p>新たな存在意義を見つけられるのであれば、という感じであるか。</p>

事務局	<p>それであれば、市が出資をしている意味が出てくる。</p>
成田委員	<p>了解した。</p>
石井委員	<p>指定管理料に財政的視点という意味合いはないということでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
石井委員	<p>そうであれば、問題があるかないかではなくて、財政支援としての要素はないと記載した方が分かりやすいのではないかと。ここに入っているのはそういう意味であると思う。従って指定管理料は別のルートで決まっており、利益が含まれていてもそれは別に財政支援ではなく民間企業であっても得るお金である。そのような脈略でここが記載されているのであれば、そのように書いた方が誤解がない。</p>
中村委員	<p>そういう風を書くべきだろう。</p>
石井委員	<p>言葉の使い方だけであるが、あえて「問題がない」と書くと逆の勘繰りをしてしまうような気がする。</p> <p>また後段の方は自分も言った意見だが、具体的に指定管理業務以外というのは狭すぎると思う。指定管理でも特命でもっと今よりも質のあるものを担っていただくこともありうるという議論をした。それで外郭団体を残すというのは可能性としてはあってもいいと思う。その意味ではちょっと狭くなっているので、むしろ市として必要な政策の役割を担わせるとしたら、出資は残すというだけのことである。指定管理の有無とは少し別の話に組み立てていただいた方がよい。僕は少なくともそういう意味で申し上げたつもりである。</p>
河西委員長	<p>この議論については記憶があやふやなので、事務局より送付していただいた「項目別結果集計」を見ると、7頁に「財政的支援の点検」の中段のコメントに「問題はない」とあるが、その言葉の前にはきちんと説明が書かれている。その記載がないため説明が不十分となり、中村委員のような捉え方をされてしまうということがあると思う。この「公民館～問題はない」までの前の文章にもう少し言葉を付け加え、指定管理料そのもの自体は優遇されているわけではなく問題はないという意味に取れるように直さないといけないと思う。</p> <p>また「特命」に関しては、8頁のコメントに「市施設の特命による指定管理」とあったので、ここからきたのではないかと思う。ただ、その後にもまだ文章が続いて、「市外への事業展開による雇用開発など、明確な目的のもとで」とあり、「明確な目的のもとで」という方が重要性は高いのではないかと思う。指定管理業務以外だけではなく、指定管理業務も含めないと、もともとの発言とは違った意味になってしまう。</p> <p>これまで2か所、「問題はない」の前の部分について少し文章を変えるということと、「指定管理業務以外に特命の事業を」を少し整理することが出された。他に何かご意見</p>

	<p>はあるか。特段他になければ、その2か所に関して再度事務局で文案を作成していただき、皆さんにご確認いただくということで対応させていただく。</p> <p>それでは、続いての項目、人的支援、こちらに関して何かご意見はあるか。</p>
成田委員	<p>「プロパー職員の育成や市役所以外からの人材確保も視野に入れるべきである。」という部分だが、人材に関しての言葉としてももう少し踏み込んで、「経験が豊富であり即戦力となるような人」というように少し具体的に書いていただければと思うがいかがか。私の中では、NPO活動経験がある人を入れていただきたい気持ちがあり、調書の案は書いたが、そこまではなかなか踏み込めないと思うので、即戦力となる人という記載でいかかと思っている。</p>
石井委員	<p>即戦力というのは若者を排除するので、今の世の中としてはまずいと思う。</p>
成田委員	<p>私は年齢ではなく、若い方でも色々なご経験を持つ方もいるのでそこを想定していたが。</p>
石井委員	<p>そこはむしろ、育てるところから始めないと若者は採用できないので、そこは排除しない方がいいと思う。</p>
成田委員	<p>若者排除というつもりは全然ないが、そうなってしまうのなら記載しない方がよい。</p>
石本委員	<p>意欲があるという表現ならどうか。</p>
石井委員	<p>それはいいと思う。</p>
河西委員長	<p>だが、それを書いてしまうと今の社員の方に意欲がないような話になってしまうので、難しい。今の社員の方も意欲があり、頑張っていると思う。</p>
加藤委員	<p>ただ、民間のノウハウは必要だが公共性という特殊な性質を持つことを理解している人材が必要であり、そういうバランスのとれた人材を探すのは難しいことだと思う。経営者の問題もある。</p>
河西委員長	<p>市のOBの方が行くと、どうしてもどんどん事業を拡大しようとする考えはないかもしれない。</p>
成田委員	<p>安全な方へいってしまう。</p>
中村委員	<p>この前の発言の中にも「市の意向に沿うように」とあった。それには少し驚いた。</p>
石本委員	<p>ビジョンがないというのはこの前の皆さんのお話の中でもよく聞かれた言葉だと思うの</p>

	<p>で、ビジョンが作成できる人材というような、目標意識をきちんと持てるトップの人材であり、そのトップの目標を実現させていく意欲のある人材であるという表現で、2段構えでないと駄目だろうと思うのでそこを補足されるとより形が見えると思う。</p>
石井委員	<p>それなら自主性というところをもう少し書けばよいのではないか。先ほどの自主・自立性の議論と同じではないかと思う。そこを少し膨らませると、もっと前向きな部分が出る。</p>
中村委員	<p>人材確保という意味では、若い人もそうだが経験のある人も必要である。特にこういう公民館や生涯学習のようなものに関しては、専門的な知識や資格を持った人がいて、そこに付随して実際に活動する人間がいるというのがよい。そういう意味ではバランスが必要だと思う。今の状態でバランスが取れているかという、やはり足りないという感じがするので、この人材確保にそういう表現を入れた方がよい。</p>
河西委員長	<p>この項目は市からの人的支援なので、人材の確保については公社の経営の問題で、そのことについてまでここで評価すべきかどうかということがある。</p>
事務局	<p>そういう意味でいうと、今ご議論いただいているのは市の関与の在り方の部分であるので、これまでの事を付け加えるとしたら自主・自立性のところに今後の方向性の表現を加える方が、この評価表としては妥当だと考える。</p>
河西委員長	<p>自主・自立性のところに「そのためにも時代を担うプロパー職員の育成」と「市役所以外から」というような文言を加えておくといいのかと思うが、いかがか。人的支援の項目については、あくまでも市が色々な人材を出向させて事業を行っていく支援のありかたに関してどうかということの評価し、その評価については、「取締役が市OB及び所管課管理職であることについては、市の関与が大きく、人的支援が最小限とは言い難い。」という評価になるのかと思う。</p> <p>他にご意見はあるか。それではこの項目については今まで議論をふまえて、「これからの公社が～」以下の文書について、自主・自立性に持っていく、「プロパー職員」については、少し文言を追加して皆さんのご意見を反映させることとし、それをまた皆さんにご確認していただくような形にする。</p> <p>続いて情報公開について何かご意見はあるか。事務局に確認するが、情報公開だけ記載が2行になっているのは、スペース上書けないということであるか、それとも意見が少なかったということか。</p>
事務局	<p>スペースがぎりぎりということは確かにあるが、文言を付け加えていただくことはある程度出来る。</p>
石井委員	<p>評価する時にはあまり書かなかったが、一般的に利用状況についての公開が不十分だという問題が、このような施設にはある。公平に使われているかということが見えなく、たくさん利用者がいるというところだけで終わってしまっている。特定の人だけが利</p>

	<p>用しているという実態が強くなるので、そこはバランス良く情報を出さないと新しい利用を促すということに繋がらない。結局使う人が使う施設で終わってしまうという問題になる。それは、あえていうと情報公開の問題ではないかと思う。上手く書きようがないかもしれないが、ここで不十分なところがあるとしたらそこであり、更にその部分を開示するスタンスは事業者にとっても意味があることなのではないかと思う。</p>
河西委員長	<p>評価の平均点が3.4であり、情報公開のまとめの文書は2つに分かれている。前半は問題ないが、後半は「ただ」以下に今石井委員がおっしゃった「提供する情報の内容、利用者アンケート～」というような形で記載するのはいかがか。</p>
石井委員	<p>こだわっているわけではない。</p>
中村委員	<p>今のご意見は分かるが、私が江別市民会館の情報公開を考えると若干難しいと思う。個人情報の問題もあるし、あまり全部出してしまうとそこに批判が集中する可能性がある。どうしたらいいのかと考えていた。</p>
石井委員	<p>本当の必要性はその問題であり、必要性が少しミスリードされて必要だとなっている部分が施設によってはあると思う。つまり事業主体側の問題ではないということである。</p>
中村委員	<p>私も工夫する余地は残されていると思う。</p>
石井委員	<p>書いていないわけではなくこの部分について思うところを言うだけで、文章表現上どうしても変えろという考えはない。</p>
中村委員	<p>しかし努力すべきではある。</p>
加藤委員	<p>公益・公共性のところに本来は入れるような話ではないか。</p>
河西委員長	<p>今加藤委員がおっしゃった通りで「外郭団体経営評価項目別結果集計」の2頁の「何故、市民の生涯学習の推進や、地域住民の集会場所の提供等を公費を投じて推進するのかについては、その現代的意義を再検討することは必要かもしれない。」というのが、石井委員がおっしゃった利用する団体の片寄りがあるということだと思う。</p>
成田委員	<p>実際市民の方で使いたいが使えないという方がどのくらいかは把握できないが、そういうことがあるのなら言葉を盛り込んだ方がいいと思う。だが、現状がよく分らないので、そこはどうしたらよいか分からない。</p>
河西委員長	<p>申し訳ない、先ほど石井委員がおっしゃっていたことは2頁の「受益者が特定者に限定されやすい傾向等を勘案すれば」という部分であった。</p>

石本委員	先日のヒアリングでは、それについて否定されていた。
中村委員	施設側はそうだと思う。しかし客観的に見た時に、使いたいと思った時にはいつも使えないという気持ちは出てくると思う。そこで差別化があるかといえばそうとは言えない。
石井委員	だから目に見えない部分になってしまっているの、なんとも言えない。
中村委員	どこまで公社側に求めるのかということが問題である。
河西委員長	それはどちらかという設置者側の自治体の問題である。
中村委員	条例やそのようなことも含めて考えていかないといけない。市民会館も同じで条例に阻まれている部分がある。
石本委員	通常のホームページの内容は空き状況や利用可能期間などがほとんどである。実際に使用している方の活動のお知らせはしていない。こんなにいい活動がここでは行われていますということが市民に伝われば、そこに参加したいということもあると思う。ただ、PR自体は団体自身に任せられていることが一方ではあるのだと思う。
河西委員長	本来、生涯学習の拠点であれば、そこでどんな活動がなされどんな市民の方々が参加しているという情報を発信し、それにより生涯学習に参加しようという市民の方が増え、結果として自治体が考えているような市民の生涯学習の増進が図られる。
中村委員	その件に関しては、私は市全体で取り組むべきだと思っている。今、江別市には「コラボニュース」という市民活動団体の活動を紹介するものや、「市民活動センター・あい」からの活動団体の情報公開が行われている。そういうものがまだすぐ力足らずであり、浸透していない。その辺も含めて施設側の方が担える部分があると思うので、写真や動画を紹介していくというのは大事なことだと思う。
石本委員	個が単発で発信する情報は本当に触れる機会が少ないが、色々な方向性から同じことを言ってくると範囲が広がるので周知の相乗効果は出る。情報は誰かに任せとおけばいいというものでは絶対ないので、色々なところから双方向に行う情報発信の方が本当は効果がある。
河西委員長	元の文案に戻って、「ただ利用者のアンケートへの対応方法など」に「提供する情報の内容」を前に加え、今後教育委員会の方から公民館でどのような活動をしているかという情報を載せられるのなら載せて欲しいということを指定管理者に言って、行ってもらうというのもいいのではないかと思う。

事務局	おっしゃる通り任せっきりで駄目であるし、適切な情報公開というのも今後必要になってくると思う。評価は評価で今のお話であるとして、今後また市として社会教育関連の計画が作成される段階では、いただいた意見も伝えられるような場があれば我々の方からも伝えた中で、働きかける部分もあると思うので、そこは必要に応じて生涯学習に伝えたいと思う。
河西委員長	では情報公開で他にご意見がなければ、「提供する情報の内容」を付加した文案を作成して、委員にご確認していただく。 それでは最後特記事項、ここは結論的なことが書かれているが何かご意見はあるか。
石井委員	ここも「公民館の指定管理だけ」と記載されているが、「公募施設の指定管理だけ」としないと一貫しない。
河西委員長	ではここは「公民館の」というのを外せばいいか。
石井委員	むしろ「公募施設の」とした方がいい。
中村委員	将来的には他の施設も当然視野にいれてもいいわけである。
河西委員長	他になければ特記事項に関しては今の1点を変えることとする。 こうした個別の外部評価の分析のまとめが外部評価の総括ということになる。今の皆さんからの修正意見もふまえたうえで何か変えるところ、付け加えるところはあるか。
喜多委員	4項目上げているが、2・3項目は、箇条書きでありながら「しかしながら」「また」と続く表現がなじまない。続き言葉で表現されるのはいかがか。これが間違っているわけではないのだが、項目が4つあるのなら4つの箇条書きの記載の方が分かりやすいのではないか。
石井委員	これは項目が3つである、「しかしながら」と「また」が並んでいるので。
河西委員長	事務局はこれについていかがか。
事務局	要素として色々ある部分をまとめた。
石井委員	現況、課題、対応方向と3つの内容が4つで書いてある。
中村委員	こういう総括の場合はやはり、(1)(2)(3)と分けて書いておかないといけない。これはただの文章のつながりである。
事務局	今後少し整理する。石井委員のおっしゃる通り、現状と課題、最終的に目指すべきと

	<p>ころという分けになっている。接続詞で繋がっているの、読み方として一段の文章になって見えるということもある。</p>
石本委員	<p>コピーライターとして一言いわせていただくと、私は江別の役所としてはとても素晴らしいと思う。すんなりと読む人の心に届き、役所の文書としてこういう在り方もあっていいのではないかと思うので、賛成である。</p>
河西委員長	<p>「・」を外すと、違和感はなくなる。</p>
事務局	<p>明確に現状と課題と方向性に切り分けるか、あるいは石本委員がおっしゃったように文章の流れで読める方がいいということであれば、意図的に打った「・」を外し、一段の文章としてさせていただく。また他の形式でもよい。事務局はいただいた意見で整理させていただく。</p>
河西委員長	<p>一連の文章にしても現状と課題、今後の対応が全て含まれていれば、この内容でいいのではないかと私は思っている。ただ「・」が今のような誤解を受けるのであれば、外すべきかと思う。</p>
石井委員	<p>「・」を付けるなら3つにした方が分かりやすい。「また」を繋げば3項目で理解できる。</p>
河西委員長	<p>1つの文章にするにしても段落をきちんと付け、3段落構成にする必要がある。ここはまとめになるので、事務局で議論していただき、最終案を提示して欲しい。特に1, 2, 3, のような箇条書きにこだわる方、もしくは1つの文章にこだわる方がいけば何うが、そうでなければ、事務局で再検討していただきたい。意味が変わらなければいいわけである。では1度事務局にお返しするので、再度文案を作って、委員の皆さんに再確認していただき、更にまたご指摘が出てきたらその場合は委員長責任ということで最後の成案を決めさせていただく。</p> <p>それでは協議事項に関しては以上であるが、何か事務局からあるか。</p>
事務局(企画政策部長)	<p>私から一言。ご審議いただきましてありがとうございます。この報告内容は市にとって重たい内容であり、謙虚に受け止めてこれから具体的に作業を進めたいと思う。実は8月21日の前回の委員会後、早々に振興公社の経営陣、所管の総務部、市の理事者と協議を行った。来年度は指定管理者の新たな公募となるので、それまでに公社の在り方を含めた一定の方向性を示さないと、公社としての存在意義が問われることになる。これまでの皆さんからの意見も含めて理事者にはその旨伝えている。総務部が中心となり公社の将来的な姿と、当面今はどうするのかということを中心に議論して、方向性を示せるような形まで持っていきたいと考えている。</p> <p>また、市の社会教育基本計画は、現在策定中の平成26年度以降の総合計画と合わせて見直しをする予定である。生涯学習課が窓口となり、江別市の5年間の社会教育の基本計画作りをこれからスタートさせる。当然この生涯学習における公民館の役割が</p>

	<p>大きな課題になってくるだろうと思う。政策調整課長も委員であるので、これら本日の意見を反映しながら、江別の生涯学習の拠点としての公民館という位置づけをきちんと行っていくことが重要だと考えている。行政として、社会教育主事等人的配置の問題、連携のとれた体制作りが必要であると考えている。皆さんから出された意見は非常に重く、受け止めて対処したいと思っており、引き続きご意見等をいただければと思っている。</p>
<p>河西委員長</p>	<p>ありがとうございました。それでは事務局からその他に関して何かあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回の開催は皆さんのスケジュールを調整し、12月中に開催したいと考えている。議論のテーマにいても調整し、皆さんから何かなければ委員長と相談させていただいたうえで事務局からご連絡させていただく。</p>
<p>河西委員長</p>	<p>委員の皆さんから何かあるか。 では、ご協力ありがとうございました。以上で平成24年度第3回行政改革推進委員会を終了する。</p>

11:30 終了